



発行所
一般社団法人秋田中央建設業協会
発行人
田中道

〒010-0951秋田市山王4丁目3番7号
TEL 018-862-7778
akenkyo@akenkyo.or.jp

[秋田中央建設業協会](#) [検索](#)

建設業年度末労働災害防止強調月間

令和2年3月1日~31日

建設業労働災害防止協会が定める本年度の「建設業年度末労働災害防止強調月間」は、3月1日から31日までの1ヶ月間にわたって展開されます。



本年度の労働災害は、当管内を含め、全国的に減少傾向にはありますが、さらなる減少を達成するためには、死亡・重篤災害に繋がる墜落・転落災害、建設機械・クレーン等災害、倒壊・崩壊災害のいわゆる三大災害の撲滅に重点を置き労働災害防止対策の徹底を図る必要があります。

また、年度末には公共工事等の多くの工事が竣工に向け繁忙期となり、工事関係者、職種の出入りも多く、作業間の連絡調整の不足、作業指示の不徹底、

過重労働等により安全衛生管理が不十分となり、労働災害の多発が懸念されます。また、近年では技術者・技能労働者の不足や高齢化、作業に不慣れな新規参入者の就労等配慮すべき点も多く見られ、このような状況に対処するため、労働災害防止対策の徹底を図るための運動を展開するものです。

会員各位におかれましては、「建設業年度末労働災害防止強調月間実施要領」を参考にして、経営トップの明確な安全衛生方針のもと、企業の実情に即した実施計画を作成し、さらにリスクアセスメントにより定めたリスク低減措置の確実な実施、ならびに建設業労働安全衛生マネジメントシステム（コスマス）を導入・実施するため、店舗と作業所が一体となり、着実に労働災害防止活動を遂行されるようお願いいたします。

◆年度末重点実施事項

- ① 経営トップ等による年度末現場点検の実施
- ② 墜落・転落災害の防止
- ③ 建設機械・クレーン等災害の防止
- ④ 倒壊・崩壊災害の防止
- ⑤ 飛来・落下による公衆災害の防止
- ⑥ 火災・爆発等災害の防止
- ⑦ 転倒災害の防止
- ⑧ 交通労働災害の防止
- ⑨ 不安全行動による災害の防止
- ⑩ 安全衛生教育の推進
- ⑪ 職業性疾病の防止
- ⑫ 化学物質に関するリスクアセスメントの実施
- ⑬ 健康確保対策の充実
- ⑭ 現場におけるメンタルヘルス対策の推進

現場代理人と監督職員との意見交換会

秋田地域振興局と秋田中央建設業協会・秋田中央建設青年協議会の主催による「現場代理人と監督職員との意見交換会」が令和2年2月5日（水）14時から市町村会館5階大会議室において開催されました。

平成23年度から行われているこの意見交換会も今回で9回目となり、多数の参加者が集いました。発注者側からは県が34名、受注者側からは当協会会員を主体に90名の参加がありました。



佐藤春浩秋田地域振興局建設部長と加藤義光秋田中央建設業協会会長からそれぞれ開会の挨拶があり、続いて、秋田地域振興局建設部近藤雅企画・建設課長から「新・扱い手三法について」説明がありました。



次に(株)加藤建設 舟木幸広氏からは「地方道路交付金工事（秋田市下浜羽川）」、(株)沢木組・(株)加藤建設特定建設工事共同企業体 能登谷孝介氏からは「向浜ふ頭造成工事（秋田港向浜地区）」についての工事事例の紹介をしていただきました。

また、秋田地域振興局建設部中山礼子主査から、平成25年12月に作成した「仮設工にお

ける設計変更の実態について」、新たな設計変更事例を追加した第2版について説明がありました。



自由討議に入り発注者側から着手前測量及び現場踏査等の確実な実施について、受注者側からは市街地における資材置き場等の情報提供、施工管理項目の見直し、河川災害復旧工事における民地部分の復旧、残土検収の簡素化、出来形・品質管理値の工事成績評定への影響についての5件の要望事項が出され、それぞれに回答を出してもらい大変有意義な討議のまま、予定時間17時に終会となりました。

この後、ふきみ会館に会場を変えて「技術者交流会」が開かれ、約70名の参加者が和気あいあいに歓談し、日中の会議で不足した意見や情報を交わし、盛会のうちに終了しました。



秋田中央地区建設技術推進協議会(産学官)『技術研修会』

2月21日(金) 14時から県庁第二庁舎8階大会議室において、秋田中央地区建設技術推進協議会(秋田地域振興局建設部・秋田大学工学資源学部・当協会)主催の『技術研修会』を、参加者は85名(当協会からは40名)で開催しました。

佐藤春浩会長(秋田地域振興局建設部長)からの開会にあたっての挨拶のあと、講演が行われました。

①「性能」から考える土木構造物の維持管理

秋田大学 理工学研究科 准教授 高橋 良輔 氏
RC構造物の長寿命化に伴う課題や劣化構造物の解析による性能評価、性能に基づく診断の必要性、将来性能予測など評価手法及びその使い分けの重要性について写真や動画により説明いただきました。



②沿岸道路の土砂災害対策検討事例

～斜面監視の必要性について～

奥山ボーリング(株) 技術本部 技術部
次長 栗山 大助 氏

平成30年に発生した国道101号生鼻崎トンネルの道路災害における、斜面崩壊のメカニズムや調査結果の概要、対策工法について説明があり、労働災害対策のための斜面監視のポイントについて講演していただきました。



③沿岸道路の恒久的な土砂災害対策

～洞門工の設計事例～

(株)復建技術コンサルタント 構造技術部
秋田技術課 課長補佐 岩谷 政洋 氏

同じく生鼻崎トンネル対策工法について対策工法選定理由や施工時における不測の事態などについての設計事例の紹介がありました。



以上の講習会は質疑応答を含め17時に終了し、その後会場を移し41名が参加しての懇親会が開催され、当協会齊藤豊隆副会長が挨拶を行い、意見や情報を交換し、盛会のうちに終了いたしました。

今回は試験的要素や設計手法などが中心となっており、直接現場に繋る内容ではありませんが、構造物の維持管理の課題や危険斜面における労働災害防止、設計思想を知ることによる現場の対応などについて、現場技術者として認識を新たにすることができました。



建災防秋田県支部 安全衛生表彰式

2月4日(火)秋田市「秋田ビューホテル」において「令和元年度建設業労働災害防止協会秋田県支部安全衛生表彰式」が行われ、職場の労働災害防止に積極的に取り組んだ功績により、当協会からは**(株)伊藤組**が事業場賞を、**岡部建設工業(株)**の足利力氏が職長賞を受賞しました。



あきた建設産業女性交流会に参加

2月13日(木)午前10時30分から秋田ビューホテルにおいて、「あきた建設産業女性交流会」が県内各女性部会会員や経営者ら70名を集めて行われ、当協会女性部会からは幹事4名と女性部会会員所属企業の経営者4名が参加しました。

この交流会は、秋田県と秋田県建設産業団体連合会の共催で、働き方の改善に向けた企業の取組みを共有することで、男女共に働きやすい環境づくりを実現することを目的に開催されたものです。

はじめに小林秋田県建設部長より、「働く場の提供が人口減少の抑制につながる、女性部会会員の皆さん之力を借りて建設業の魅力や大切さを発信し、担い手を確保していきたい、きょうは意見交換を通して課題等を検討していきたい」と挨拶がありました。

つづいて、クローバーを代表して大友円会長が「職場体験では建設業に興味を持つ普通高校の女子生徒が増えている。女性部会の活動が浸透し始めてきているようだ。今後も活動を継続していきたい」と述べました。

女性部会の活動報告では、大友会長が当協会女性部会の設立から現在まで4か月間の活動状況を発表しました。

午後の第2部では、(一社)土木技術者女性の会の渡邊弘子会長が「建設業界における女性活躍～わたしのため、あなたのため、次世代のため～」と題して基調講演を行いました。

その後、7班に分かれて、女性職員と経営者が働き方や女性の働く意義について意見交換を行いました。

会議の終盤には佐竹知事も見えられ、「建設業もICT技術が進み変化している。県としても人材確保やよりよい環境づくりを後押ししていきたい」と挨拶をされました。最後に佐竹知事を囲んで参加者全員で写真を撮り、交流会は盛会裡に終了しました。

参加した会員さんからは、他の女性社員や経営者の方の意見を聞いてとても参考になった、あつという間でとても楽しかった、との感想が聞かれました。

